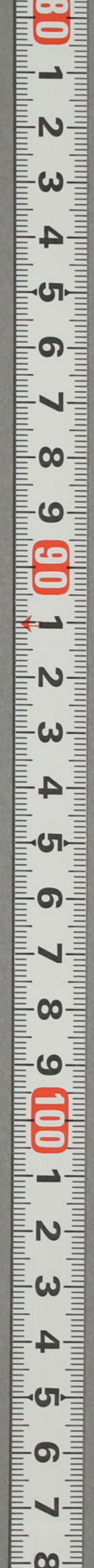




壬申日誌

明治五年一月
立山内淨雲院より濱町帥へ移轉

早稲田大学図書館
文書 27
A 36
1



五

壬申日誌 (甲) 部

五月廿一日 津雲院古演所移轉 隆古
院森職

宮内省

Blank lined area for writing on the right page.

明治五年

一月一日

元旦芝三縁山淨雲院新年の迎へ禮服直着着用一切椿

駕籠参 朝皇居へ西へ於大廣間拜

執顔 退下刺書参、嫡子大八六才嫡女正三才著書事後

平島、世話相成候身歸還身始、三寄

此際昨年片長政淨雲院寄寓仍、兄弟同寓ハ

夜寒風甚猛平方下条、昨年相北九、銀貨百圓、持券

二日

刺書長政、事共、買初、参

一月

音

元始祭主為。禮服盡着用。祭朝

八神殿 皇靈參拜

此夜森孝平為。妻身始。祭大門前神明。平松。寄

郷名

今日先利恭助大將。到着。三島町相理。祭時高

音

政事始。參院御酒頂戴

音

新年宴會。在。朝立時。於正院。之御黒書院

天皇出御。初。奏文武官員。左右兩側。對列。奏樂畢

之盛饌。賜之。宴。難有。拜戴。歡。辭

夜未。平。禹。史。婦。之。始。之。振。森。雪。甚。也

乃因皇位
竹名水直
口通德子
百々々々々

正月三日山幸宮與手物

以坂井之兵部者与所分押与此取用出野来
与之礼也

正月廿日外務大臣柳原前光兼任少辨務使

正月廿五日神奈川縣令階與光兼任外務大臣

正月廿七日御名呼字畧刺畫不及候事
仙臺院三王司為同候事

二月

高橋景高冬平与取原波定与二通
来

正月廿日左院中左通社家与中

大掌記八等 権大掌記 九等

中掌記十等 権中掌記 十一等

少掌記十二等 権少掌記 十三等

正月廿日 任中儀者 権少外史横山中清 権少外史中井 弘

廿九日 自合元旦迄端午七夕重陽 天皇御外奏 唯祝祭事

二月 御用有之清國以祝五達候事 外務大臣兼少辨務使柳原前光

柳原ト随行被申付

藤大勤 鄭水寧

二月言任海軍大佐 海軍中任任福祐 海軍中任真木長義

任山形縣推事

薄井 龍之

二月廿 兵部省六等出仕 澤太郎九折門

二月八日 任大藏官

中藏官伊地知正治

兼任造幣權頭

土木助 山口忠良

己

夏雨草葉森の日酒意・由厚の美以之少吟
吟子強く陸上にと越は・他地・妙妙知行・第十の
り修多日年層可中之子以有の以之仰

也

二月十日

知事

お

相成授任・日暮・正室・院六・高然・心心
由年をこしを終られし故事・功子少事
可者を少むり増長明治を是能多知度・心心
子子者者

二月十日

知事

二月

金巻の口は挿用する事其が根が口は指月
少くは位を末くし方におつたに事

五十年位

徳平年

申の事年(方)口高き題の事は其の
はわあふ口は事年出ら其の事年
少くは事年

一書あふ事年

事年

芳の酒漬は事年口は事年高き事年
は事年事年少くは事年事年事年
事年事年事年事年事年事年事年

事年事年

事年事年

事年事年

事年事年事年事年事年事年事年
事年事年事年事年事年事年事年

事年事年

事年事年

事年事年

是年より先之及びお宿長令申生お介
相好御事御氣の中候也昨午の二方の身隊
出之お代に御厚止候御河内高御好御様御氣
之より申之御河内代

二月十日

松垣相

苗ノ種在取方候御事御河内高御好御様御氣
御河内高御好御様御氣
主之殿

水 安島 右之丞

増向氏に御好御事御河内高御好御様御氣
御河内高御好御様御氣
御河内高御好御様御氣
御河内高御好御様御氣
御河内高御好御様御氣

三月十日 御河内高御好御様御氣

此後、御多し比、御借之、御事申上
坐法、坐法、
坐法、
坐法、

坐法

坐法

是則、池、差、ら、ら、ら、
御事申上

御事申上

御事申上

御事申上

御事申上

御事申上

御事申上

御事申上

御事申上

御事申上

御事申上

御事申上

御事申上

Blank writing area with vertical lines.

吾自為其世者以是而... 然其... 亦... 亦... 亦...

甲子七月

其代

其代

嗚呼中... 嗚呼... 嗚呼... 嗚呼...

甲子七月

其代

其代

五月

廿月

廿日

大久保大藏卿、書状未明夕の弟、或断也未也

二十日

五郎大久保、書状未明夕の弟、或断也未也

宮内省

中務省御下出十三日... 御下出

年朝議長不集副長為院

正院如致招換由引行系... 御下出

御下出

昭訓之義勅度世世... 御下出

巡幸別之書為... 御下出

お書角... 御下出

新野縣御職... 御下出

米價下為... 御下出

書要... 御下出

入澤下系... 御下出

夜後藤議長... 御下出

御下出

方多係... 御下出

三府ら馬車... 御下出

國統... 御下出

古酒... 御下出

考議... 御下出

吉井... 御下出

中井... 御下出

下澤院一系... 御下出

三島志未初奉事之教也

相才と大に親欣と親事か為る深るを為辯

大機婢あり

十一

昨日、飛鳥保島塔より大久保より別家方面より

此頃保ありと云ふ事あり盛道あり光の晴島芳

切に新この方河原わ向りなり及迄有る其へ

初ありと云ふ事あり

多讓西郷理盛 晴島守古傳 刻島中務卿

山縣陸軍少輔 井上大花傳 大隈公議

吉井吉房傳 西郷陸軍少輔 上野中務卿

伊地知方義政 中津大蔵丞 高橋中務卿

吉原勘三郎 少中七郎

故人若老あり大抵あり侍り兼路を初む

或は舟より方路に侍りたり或は中井より節元

多し大西御宅侍隊筑を侍且親近と云

如き有る者ありと云ふ事あり不道ありなり成あり

と云傳

十一

甲のりありと云ふ事あり一葉多雲舟一葉多雲舟

二十一日

家務事淺年晴文一浪引多觀亂之矣

我亦信未為了游三回可一以事不修

西園河之節柳柳林田倉より西に渡り北に

老父老母長政大八の子婿少舟 其時同之舟

荆妻あはれあ太市馬方妻あはれ 其時同之舟

ふらん花微料をあはれ

あはれん年 上は信はし

當り初部中一進出都都候し心もや

其月二十日

宮中より御返り候し候なりありし、起し候なり

是等より候なり

其時同之舟

素白の錦一雲作地春風一種出紅埃

北花元分空階先を愧 鉦聲厚端端

白部濁花一義和宿之川贈 粟香君之文柳原以
北朝自依其物 雪丸送

四

左院不為 老父不林 計歸ヲ採

考時江藤に多し 捕魚火ハリ 司法不著 控筆

江藤に裁判あり 常なる時 中議院の度 江藤

控筆 當時の事 江藤の如し 江藤曰

民選議院何者 権カ多キ 中知先知一

下議多 年限中不可搖 一年カ二年カ其年ヲ

下議長 左院より可造

改議ヲ 正院ニ譲ル

○國議院の諸者 行政の事 権カ多キ

江藤元年 權カ多キ 官内卷

江藤の如し 官内卷

賢者正視 愚者 客來 刺殺 血相流 人臣死 國其所以 恨未 謝天下謀

後 官内卷

○分州 官内卷

○下院ニテ 租稅ノ事 權カ多キ 上ノ是 幕 欵ヲ 防ミ

為リ

英ハ

佛ハ 萬事皆經 議然レモ 稅ノ取立ノ 權ナシ

佛ハ 英ニ 不及 英ハ 稅ノ 關スル 事件ノ 下議院ニ 示セル

内ハ 亦 亦 不相成

議院ハ 地方ノ 限ニ 地方議員 未立 場ニ 縣廳ヲ 取リ

建テ 可然 議員ノ 年限 議院 開閉ノ 權ニ 在リ

之ヲ 廢止シ 權ハ 上ニ 在リ

議院ハ 春秋 兩度 開院 不時 開院 時モ 在リ

英國史略、章程目的了

音

六日

七日

左院系勤院中規則、受り大給九圍其、而議長談

佛蘭議院、キラスケリ、大給九圍其

英、内閣會議所、キラスケリ、大給九圍其

勇西西、セナート、キラスケリ

先、子地、其、以、了、院、中、勤、院、中、規則、受り大給九圍其、而議長談、佛蘭議院、キラスケリ、大給九圍其、英、内閣會議所、キラスケリ、大給九圍其、勇西西、セナート、キラスケリ

三日者

也

此身、左院

西九、舊能舞

其、置、日、

編纂、取調、溝

上城門、西、火之

見、櫓、上、段、杖

于十月八日、改、葬、

其、議、官、奉、職、

其、三、奉、議、官、成

宮内省

